

## 【投稿規定】

1. 投稿できるのは、原則として本学会会員に限る。
2. 原稿の種類と枚数は以下の通り。
  - ①論文・研究ノート・研究報告（研究資料） 20,000字以内
  - ②事例研究 7,000～10,000字  
※字数には図表・註も含む。図表はA 4判用紙半頁分＝500字と換算し、指定字数に含める。  
※採用された論稿の掲載区分は編集委員会が判断する。
- ③書評・書評論文を投稿する場合は、事前に対象書籍を編集委員会に申し出ること。編集委員会で可と認めたものについて投稿できるものとする。対象書籍は過去3年以内に刊行された学術文献とし、字数は書評4,000～6,000字、書評論文10,000～12,000字とする。
3. 書き下ろし原稿に限る。また他誌への多重投稿は認めない。
4. 論文・研究ノートには要約（800字以内）を添付すること。
5. 原稿は Word または一太郎で作成すること。
6. 原稿は E-mail に添付して送信するか、郵送すること。郵送の場合は、プリントアウト3部（コピー可）およびディスクを同封のこと。提出された原稿・ディスクは返却しない。
7. 特集テーマおよび投稿締切日は、本学会ホームページに掲載する。
8. 投稿の際、住所、氏名（ふりがな）、所属と職位、電話番号・E-mail アドレス等連絡先を明記した別紙を添付すること。
9. 原稿の採否は、編集委員会が指名した査読者の査読結果を、編集委員会が総合的に判断して決定する。投稿者は、投稿した時点で編集委員会の判断に従うことを誓約するものとする。
10. 掲載が決定した原稿の執筆者校正は原則として1回のみとする。校正は印刷上の誤り、不備の訂正のみに留めること。校正段階において著しい加筆や訂正があった場合、編集委員会の判断で掲載を中止する場合がある。
11. 論稿が掲載された投稿者には掲載誌を2部贈呈する。論稿に対する原稿料は支払われない。抜刷を希望する場合は投稿者が実費を負担する。
12. 原稿提出先

113-0033東京都文京区本郷3-3-13 戦略研究学会編集委員会

E-mail: jimukyoku@j-sss.org

## 【執筆要領】

1. 原稿は横書きとし、使用言語は基本的に「日本語」とする。
2. 審査過程での匿名性を保証するため、投稿者が特定できるような情報は記載しないこと（拙著、拙稿）など。また、謝辞などは掲載決定後の最終原稿で挿入すること。
3. 図表は本文中に挿入せず別文書で作成する（挿入箇所を明示）。図表にはそれぞれ通し番号を付ける。また図表の横幅は110ミリ（仕上がり寸法）以内に収めるように作ること。他から図表を引用する場合は出所を明記する。また、権利者の許諾が必要な場合は投稿者が所要の手続きを行う。
4. 章・節・項の区別はⅠ、1、(1)とする。
5. 本文に初出の人名は原則としてフルネームとし、非漢字使用圏における人名はカタカナ表記した後、( ) にアルファベット表記を付す。
6. 算用数字とアルファベットはすべて半角を用いる。
7. 註および引用文献の記載方法については、下記の2つの方式のうちいずれかに準拠する。

### (A) すべて本文末尾に記載する方式

- 1) 日本語文献の表記は下記の例に準ずる。
  - \* 1 赤木完爾『第二次世界大戦の政治と戦略』慶應義塾大学出版会、1997年、87頁。
  - \* 2 デーヴィッド・マッカイズック「大空からの声——空軍力の理論家たち」ピーター・パレット編、防衛大学校「戦争・戦略の変遷」研究会訳『現代戦略思想の系譜——マキャヴェリから核時代まで』ダイヤモンド社、1989年、544頁。
  - \* 3 赤木『第二次世界大戦の政治と戦略』248頁。
  - \* 4 同上、250頁。
  - \* 5 マッカイズック「大空からの声」108頁。
  - \* 6 「米大統領、イラク駐留軍削減・撤退の道筋示す」『読売新聞』2005年12月1日。
  - \* 7 西田恒夫ほか「座談会 国際情勢の動向と日本外交」『国際問題』第516号（2003年3月）9～10頁。
  - \* 8 三枝茂智「聯盟六星霜の軍縮運動」『国際知識』第6巻第1号（1926年1月）44頁。
  - \* 9 建川大使発松岡外務大臣宛、第596号（「第二次欧州大戦関係一件・独蘇

開戦関係」外務省外交史料館所蔵)。

- \* 10 西田「座談会 国際情勢の動向と日本外交」11頁。
  - 2) 欧文文献の表記は下記の例に準ずる。
  - \* 1 Michel Howard, *Studies in War and Peace* (London: Temple Smith, 1970), p. 156.
  - \* 2 Daryl G. Press, “The Myth of Air Power in the Persian Gulf War and the Future of Warfare,” *International Security*, Vol. 26, No.2 (Fall 2001), pp. 5-14.
  - \* 3 Personal Minutes, Churchill to Portal, 27 September 1941, in Papers of Lord Portal, folder 2c [hereafter PP, with folder number], Christ Church Library, Oxford.
  - \* 4 Sir Charles Webster and Noble Frankland, *The Strategic Air Offensive Against Germany, 1939-1945*, Vol. 1 (London: HMSO, 1961), pp. 170- 180. [hereafter referred to as WF, with volume number].
  - \* 5 Charles F. Brower; IV, “The Joint Chiefs of Staff and National Policy: American Strategy and the War with Japan, 1943-1945,” (Ph. D. Dissertation, University of Pennsylvania, 1987), pp. 209-210.
  - \* 6 Phillip S. Meilinger, “Proselytizer and Prophet: Alexander P. de Seversky and American Air Power,” John Gooch, ed., *Air Power: Theory and Practice* (London: Frank Cass, 1995), pp. 17-19.
  - \* 7 Henry R. Lieberman, “Freed American Tells of Drugging With ‘Truth Medicine’ in China,” *The New York Times*, 12 July 1952, p. 1.
  - \* 8 Howard, *Studies in War and Peace*, p. 150.
  - \* 9 Entry for 10 July 1950, Stratemeyer Diary, File K720.13A, June-October 1950, Air Force Historical Research Agency, Maxwell AFB, Ala.; U. S. Department of State, *Foreign Relations of the United States, 1950* Volume VII, *Korea* (Washington, D.C.: USGPO, 1976), pp. 240-241.
  - \* 10 Brower; “The Joint Chiefs of Staff and National Policy”, p. 201.
  - \* 11 Minute, Churchill to Portal, 7 October 1941, 1-3, PP, folder 2c.
- (B) 文中に挿入する方式
- 1) 引用文献を示す場合は、文中に、原田・萩原 (2008)、あるいは、(原田・萩原, 2008) のように、著者名 (姓のみ、同姓の著者を引用することがある場合は名も表記)、引用文献刊行年を記入する。
  - 2) 同一著者の同一刊行年の文献を引用する場合は、高井 (2007a)、(高井, 2007b) のように区別する。

3) 複数の引用文献を示す場合は、(原田,2003; Rennie, 1993; Knight and Cavusgil, 1996) のように記入する。

4) 本文末尾に引用文献のリストを下記の要領で記載する。なお、日本語文献と欧文文献を別のリストとし、日本語文献の場合は著者姓の50音順、欧文文献の場合は著者名のアルファベット順とする。

高井透(2008)「ボーン・アゲイン・グローバル企業の事業転換戦略」『戦略研究』6, 97-117.

高嶋克義編著(2000)『日本型マーケティング』千倉書房.

土屋守章(2006)「リーダーシップと戦略的思考法」『日本経営品質学会誌オンライン』1(1),3-10, 2007.4.25 アクセス,

[http://www.jstage.jst.go.jp/article/japeoj/1/1/3/\\_pdf/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/article/japeoj/1/1/3/_pdf/-char/ja/).

沼上幹(2009)『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社.

藤江昌嗣(2010)「ウェザーニューズのブランディング」原田保,三浦俊彦編著『ブランドデザイン戦略』2章,芙蓉書房出版.

松本芳男(2008)『現代企業経営学の基礎』(改訂版)同文館出版.

Brown, S. L., and Eisenhardt, K. M. (1998). *Competing on the edge: Strategy as structured chaos*. Cambridge, MA: Harvard Business School Press.

Eisenhardt, K. (2002). Has strategy changed? *Sloan Management Review*, 43(2), 88-91.

5) 引用文献以外の註を付ける場合は、本文末尾、引用文献リストの前に記載する。